

2025年度 事業報告

1. 地域経済の成長力・持続力の強化 [産業振興委員会]

(1) グリーン・トランスフォーメーション（GX）に向けた取組み

計画・目標	○四国における脱炭素に向けた機運醸成を図るため、脱炭素に先進的に取り組む企業のトップなどを招いた講演会を開催する。
実行	○「グリーン成長戦略セミナー2025」の開催 (2025. 11. 10, 徳島市, Web 併用) [講演1] テーマ：「日本のGX政策のポイントと産業発展の可能性」 講師：京都大学公共政策大学院 教授 諸富 徹 氏 [講演2] テーマ：「カーボンニュートラルに向けた大塚グループの取組み」 講師：大塚ホールディングス(株) 代表取締役副社長 松尾 嘉朗 氏 参加者：約150名 (会場：約100名, Web：約50名)
評価・次年度	○総論（国の政策）と各論（個別企業の取組み）を組み合わせたプログラムが好評で、会場とオンライン合わせ、参加者は約150名に達した。参加者アンケートでも、「諸外国と比較しながらの説明が、分かりやすかった」、「地元企業の取組みを知ることができ、有意義であった」など、高い評価をいただいた。 ○次年度は、脱炭素推進研究会の活動を通じて、機運醸成を図る。

<p>計画・目標</p>	<p>○四国の産学官の主に実務者クラスが参加する「脱炭素推進研究会」の活動を通じて、企業や地域の脱炭素化を促進させる。</p>
<p>実行</p>	<p>○「脱炭素推進研究会」の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国の産学官（実務者レベル）のネットワークを形成し、知見の共有やマッチングを促進させることで、四国におけるGXの深化・加速につなげていくことを目的に活動。 ・会員は、四経連会員企業、四国内の国公立大学、自治体等 78 機関。 <p>[第1回] <「四国カーボンニュートラル推進セミナー」として開催> (2025. 7. 31, 高松市, Web 併用)</p> <p>①コンビナートの脱炭素化等に関する講演 テーマ：「四国経済・産業の発展する未来 —地方創生、事業連携、カーボンニュートラル、 国際競争力の構築—」 講師：山口大学大学院 技術経営研究科 教授 稲葉 和也 氏</p> <p>②四国の脱炭素化協議会の取組み紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂出市番の州コンビナート水素等利活用推進協議会 ・四国中央市カーボンニュートラル協議会 <p>③ネットワーキング（交流懇親会） 参加者：約 190 名（会場：約 100 名, Web：約 90 名）</p> <p>[第2回] (2025. 8. 29, Web 開催)</p> <p>①ペロブスカイト太陽電池に関する講演 テーマ：「ペロブスカイト太陽電池の特長と産業実装の動向」 講師：桐蔭横浜大学 医用工学部 特任教授 宮坂 力 氏 参加者：約 130 名</p> <p>[第3回] (2025. 10. 23, 兵庫県神戸市)</p> <p>①水素の利用拡大に向けた実証研究施設の視察 視察先：神戸液化水素荷役実証ターミナル「Hy touch 神戸」、 水素CGS活用スマートコミュニティ実証地 参加者：23 名</p>
<p>評価・次年度</p>	<p>○第1回（約 190 名）、第2回（約 130 名）については、多数の参加があり、参加者アンケートによる評価も高かった。第3回（23 名）については、最新の研究施設を視察できる貴重な機会であり、参加者同士の交流も図られたため、非常に有益であったとの声が多く聞かれた。</p> <p>○次年度は、効果的な活動への重点化など、さらなる実効性向上に取り組む。</p>

計画・目標	<p>○四国各地で脱炭素に取り組む官民組織や自治体などと積極的に連携し、脱炭素と地域創生の両立を目指す。</p>
実行	<p>○「ローカルSDGs四国ネットワーキング会」への参画 (2025. 10. 21, 高松市) (共催：中国四国地方環境事務所四国事務所、ローカルSDGs四国、四国経済産業局、四国経済連合会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素分野（Carbon Neutral）、資源循環分野（Circular Economy）の2つのCをキーワードに、それぞれの分野で活躍している事業者と取組みを進めたい事業者・自治体等が交流するイベント。 ・当会は、共催団体として参画し、企画内容への意見出し、会員企業への周知等で協力した。
評価・次年度	<p>○出展事業者も含め、約230名の参加者があり、多様な交流が図られた。参加者アンケートでも、「予想以上にブースに立ち寄ってもらえた」、「企業間のつながりを広げるきっかけになった」など、高い評価をいただいた。</p> <p>○次年度も、四国の脱炭素に取り組む様々な団体と連携した取組みを推進する。</p>

(2) ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DE&I) の推進

計画・目標	○地域ぐるみのDE&Iの推進に向け、四国の企業が今後の取組み方針等を宣言するとともに、その達成状況を開示する仕組みなどを検討する。 (人口減少対策委員会との共同事業)
実 行	○「四国DE&I宣言企業リーグ」の設立に向けた検討 ・四国4県を訪問し、それぞれの取組み内容をヒアリングするとともに、リーグの概要について説明した。 ・趣意書、規約等を作成するとともに、具体的な活動内容を検討した。 ・リーグ参加企業・団体が人材採用の際にアピールできることなどを目的に、リーグのロゴマークを募集・決定した。 〔 デザイン科のある四国の高校を直接、訪問し、協力を依頼するとともに、当会ホームページ上でも募集したところ、38点(3校)の応募があった。審査の結果、最優秀賞、優秀賞、佳作を選定し、最優秀賞をロゴマークとして採用した。 〕
評価・次年度	○2026年6月のリーグ発足に向けた検討を計画的に進めた。 ○次年度は、リーグ参加企業・団体を拡大するための活動を積極的に推進する。

<p>計画・目標</p>	<p>○外国人留学生の採用拡大をはじめ、高度外国人材の活躍推進につながる取組みを検討・実施する。</p>
<p>実行</p>	<p>○「高度外国人材採用セミナー&留学生との交流会」の開催 (2025. 8. 8, 松山市, Web 併用) (共催：四国経済連合会、JETRO愛媛、愛媛大学)</p> <p>＜高度外国人材採用セミナー＞</p> <p>①高度外国人材の採用や定着・活躍に向けた講演 講師：愛媛大学 留学生就職促進プログラム推進室 プログラム推進サブ・コーディネーター 矢代 淳子 氏</p> <p>②座談会 (外国籍社員を活用する企業) 登壇企業：(株)ユイ・システム工房、ジャスティン(株)</p> <p>＜留学生との交流会＞ (会場参加者のみ) 司会進行：愛媛大学 留学生就職促進プログラム推進室 副室長 泉谷 道子 氏</p> <p>参加者：企業側 36 名 (会場：20 名, Web：16 名)、留学生 16 名</p> <p>○「企業と外国籍社員の本音が聞ける！日本で活躍する秘訣とは…」への参画 (2025. 9. 30, 徳島市) (共催：JETRO徳島、徳島大学、四国大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人材採用のポイントや成功事例を学ぶとともに、外国籍社員が活躍する企業の担当者や留学生と交流することなどにより、四国における高度外国人材の活躍促進につなげるためのイベント。 ・当会は、後援団体として参画し、会員企業への周知等で協力。
<p>評価・次年度</p>	<p>(高度外国人材採用セミナー&留学生との交流会)</p> <p>○参加者は、企業側 36 名 (会場：20 名, Web：16 名)、留学生 16 名であった。なお、留学生は、愛媛大学だけでなく、香川大学、松山大学、今治明德短期大学からも参加があった。企業側参加者からは、「他社事例の聴講や外国人留学生との交流等を通して、実情を知ることができた」、「当社に興味を持つ留学生に出会えた」など、高く評価する声が多かった。</p> <p>○次年度は、愛媛県外の大学との連携も視野に、四国全体への普及・浸透につながる活動を検討する。</p> <p>(企業と外国籍社員の本音が聞ける！日本で活躍する秘訣とは…)</p> <p>○参加者は、企業側、留学生あわせて約 40 名であった。企業側参加者にとっては、外国人材の魅力や採用のポイントなどを学べる機会に、留学生には、就職先としての四国の企業の可能性を実感できる機会となった。</p>

(3) スタートアップ支援、イノベーション・産学連携の推進、起業人材の育成

計画・目標	○オンラインマッチングイベント「四国イノベーションピッチ」の開催などを通じて、四国の有望スタートアップ企業の成長や、四国の大学のシーズの事業化を支援する。
実行	○「四国イノベーションピッチ 2026」の開催 (2026. 1. 23, Web 開催) <ul style="list-style-type: none">・「J-Startup WEST」の第2次選定企業 (四国地域) 6社から、先進的な独自技術や事業モデルを紹介。登壇者と視聴者による個別面談も実施した。・四経連会員、経団連や全国の地方経連、日本ベンチャーキャピタル協会などを通じて案内した結果、約 110 名が視聴。個別面談は 18 件成立 (当日 8 件、後日調整 10 件) した。
評価・次年度	○四国の有望スタートアップが一堂に会したこともあり、多数の視聴者 (約 110 名) が集まったほか、個別面談も数多く成立 (18 件) した。 ○次年度は、対面によるピッチイベントなど、これまでとは違う観点から実効性向上に取り組む。

<p>計画・目標</p>	<p>○産学官連携の進め方や成功事例等を紹介するセミナーの開催など、オープンイノベーション推進に向けた取組みを検討・実施する。</p>
<p>実行</p>	<p>○「社会産業理工学研究交流会」への参画（2025. 9. 29, 徳島市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島大学の研究成果を広く社会に公開し、理解を深めてもらうことを目的としたイベント。 ・徳島大学大学院 社会産業理工学研究部の主催で実施され、当会は、後援団体として参画し、会員企業への周知等で協力した。 <p>①若手講演発表会 ②ショットガンプレゼンテーション ③ポスターセッション ④特別講演</p> <p>テーマ：「進化計算によるブラックボックス最適化」 講師：東京科学大学 情報理工学院 教授 小野 功 氏</p> <p>参加者：約 140 名</p> <p>○「産学マッチング支援サイト」のリニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度構築した「産学マッチング支援サイト」をリニューアルし、四国の大学に加えて高専の研究者等の情報も新たに掲載。併せて四国の大学のみならず高専への技術相談の仲介依頼も常時受付可能とした。 ・PRの一環として、会員にリニューアルのチラシを送付するとともに、徳島大学の「社会産業理工学研究交流会」においてもチラシを配布。
<p>評価・次年度</p>	<p>（社会産業理工学研究交流会）</p> <p>○企業、大学を中心に約 140 名の参加者があった。企業側参加者にとっては、徳島大学の研究成果などへの理解を深める機会となった。</p> <p>○次年度は、四国全体への普及・浸透を図る観点から、高知大学と連携したイベントを企画する。</p> <p>（産学マッチング支援サイト）</p> <p>○次年度も、継続して効果的なプロモーションを実施し、本サイトの利用拡大に努める。</p>

<p>計画・目標</p>	<p>○起業人材育成に向け、四国の大学・高専生によるビジネスプランコンテスト「キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）四国」を継続開催する。</p>
<p>実行</p>	<p>○「第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国」の開催 (2025.12.10, 高松市, Web 併用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国の大学・高専 15 校から 42 件の応募があり、書類選考を通過した 8 件が、最終審査会でプレゼン。 ・高知工業高等専門学校<small>の</small>澤田朱夏さんらの「小中学生に特化した自己理解&探求学習用教材パッケージ『きみたねコンパス』」が最優秀賞を受賞。
<p>評価・次年度</p>	<p>○起業家育成に有益な取組みであることから、応募者の裾野拡大を図りつつ、次年度も継続開催する。</p>

(4) 四国産品の販路拡大支援、国際ビジネス交流の促進 他

計画・目標	○会員企業のネットワークやリソース等を活用した四国産品の販路拡大支援方策を検討・実施する。
実行	<p>○本四高速グループ主催「せとうち収穫祭 2025」への協力 (2025. 11. 8・9、11. 29・30, 瀬戸中央自動車道 与島PA) ・宇和島商工会議所や中村商工会議所などを通じて、四国西南地域の事業者等に出店を働きかけ。(7ブースが出店)</p> <p>○J R四国グループと連携した四国産品の販路拡大支援 ・J R四国ステーション開発(株)が運営している施設(高松オルネ内「shikoku meguru」)における販促活動を、四国西南地域の事業者に提案。最終的には、2事業者の商品が店頭に並ぶこととなった。</p>
評価・次年度	<p>(本四高速グループ主催イベントへの協力) ○多くの来場者があり、それが出店者の売上げにもつながったため、本四高速グループ、出店者双方から好評を得ている。</p> <p>○次年度も、本四高速グループは開催する方針であり、当会も引き続き協力する予定。</p> <p>(会員企業のネットワーク等を活用した四国産品の販路拡大支援) ○次年度は、連携先の拡大なども含め、様々な可能性を検討する。</p>

計画・目標	○JETROや中小企業基盤整備機構との連携等により、国際ビジネス交流の促進に取り組む。
実行	<p>○JETROならびに中小企業基盤整備機構との連携事業 ・「四経連懇話会 in 愛媛」(2025年9月3日)において、JETRO香川の水田賢治所長を講師に、「昨今の中国経済と日系企業の対中ビジネス」をテーマとした講演を実施した。</p> <p>・JETROならびに中小企業基盤整備機構とは定期的に意見交換を行っており、国際ビジネス交流促進につながる先方の主催事業について、会員企業への周知などを行った。</p>
評価・次年度	○次年度も、JETROならびに中小企業基盤整備機構と連携した取組みを積極的に推進する。

<p>実 行</p>	<p>○「第2回中堅企業等四国円卓会議」への参加（2025.5.23, 高松市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に応じた中堅企業支援のあり方等について検討する場として、全国9ブロックに設置されている会議体の四国版。 ・四経連からは専務理事が参加し、人手不足の緩和につながる施策の強化などを要望。
<p>評価・次年度</p>	<p>○中堅企業支援のあり方等について、経済界の意見を伝える貴重な場となった。</p>

2. 広域的な観光振興の推進 [観光振興委員会]

(1) 「四国の観光ビジョン」の具現化に向けた活動の推進

<p>計画・目標</p>	<p>○ (一社) 四国ツーリズム創造機構、四国アライアンス、四経連が共同で策定・公表した「四国の観光ビジョン (2021~2025)」の実現に向け、以下の取組みを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四国の観光関連事業者を対象に、観光分野に精通した専門人材によるセミナーを開催し、「大阪・関西万博」等で拡大が見込まれているインバウンドの誘客に向けた取組みのヒント、手掛かりを修得してもらう。 ・ 「大阪・関西万博」期間中、四経連事務局が会場を視察・取材し、常設パビリオンの外観、コンセプト、展示内容など最新情報を広く発信することで、万博の機運醸成や来場意欲の向上につながるよう広報啓発活動を強化する。 ・ 「大阪・関西万博」の盛り上げを通じ、西日本エリアとの連携を強化し、各地域の観光振興施策情報の収集、域内への還元、四国域内の施策との連携の後押しなどにより、広域周遊観光振興をサポートする。
<p>実行</p>	<p>○ 四国のインバウンド誘客推進に向けた商品企画人材の育成 (2025. 9. 11, 高松市) ※四国ツーリズム創造機構との共同事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成セミナー・ワークショップを開催し、「四国らしさ」が何かの再認識を促すとともに、インバウンド観光客を魅了するコンテンツの見せ方などを提示。 <p>○ 大阪・関西万博への往訪意欲向上に向けた広報活動の強化 (2025. 4. 6・4. 30・5. 1, 「大阪・関西万博」会場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催前 (テストラン)、開催直後に会場視察を行い、現地取材で得られた情報を当国会報へ早期掲載。 <p>○ 西日本エリアとの連携による広域周遊観光振興に向けたサポート (2025. 6. 19・20, 富山市, 2026. 1. 20, Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西日本経済協議会広域観光分科会へ参加し、各経済団体と活動状況を情報共有。当会からは「大阪・関西万博」を早期視察・取材し、往訪意欲向上に向けた広報活動を展開したことを報告。
<p>評価・次年度</p>	<p>○ 人材育成セミナー・ワークショップ参加者の満足度は 84% (N=25) と好評。なお、同セミナー・ワークショップは 2 年続けて同一講師で開催し一定の成果が得られたことから、次年度は別の人材育成事業を検討。</p> <p>○ 「大阪・関西万博」との連携による誘客施策の振り返りと、他地域を含めた成功事例の調査等を実施。</p> <p>○ 西経協広域観光分科会へは次年度も参画し、広域観光振興施策の推進と情報交換を継続予定。</p>

(2) 四国遍路文化の維持・継承に向けた機運醸成への取組み

<p>計画・目標</p>	<p>○四国遍路文化の維持・継承に向け、行政、NPOなどの地域団体、経済界などの間をつなぎ、様々な主体が個別に行っている活動について、連携の輪を広げ、地域コミュニティ全体で取組みの活性化を図る。</p> <p>具体的には、「NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク」や「(一社) 四国八十八ヶ所霊場会」などと協働で策定した、遍路文化の維持・継承のための「ありたい姿」とその実現に向けた3つの取組み(①四国の遍路文化の再評価、②保存・継承の取組みの自然な広がり、③四国遍路の課題への連携した対応)を計画、実施する。</p>
<p>実行</p>	<p>○四国遍路文化の維持・継承に向けた取組み強化の計画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク」、「(一社) 四国八十八ヶ所霊場会」などと協働し、遍路文化の維持・継承のための「ありたい姿」とその実現に向けた3つの取組みとして整理し、具体的な取組みを計画・実施。 ① 四国の遍路文化の再評価 <ul style="list-style-type: none"> ・四国遍路に内在する価値を分かりやすく伝えるため、霊場会会長などの識者からのヒアリングをもとに、前年度に作成した遍路道ウォークのキャッチコピー「今日、私はおへんろさんになる」を継続使用。 ② 保存・継承の取組みの自然な広がり <ul style="list-style-type: none"> ・Instagramアカウント「お遍路サークル」での投稿を継続。四国出身のインフルエンサーによる4県札所の紹介動画を中心に、2025年度は16コンテンツを投稿。 ③ 四国遍路の課題への連携した対応 <ul style="list-style-type: none"> ・「遍路道の保全活動」について、へんろみち保存協力会と共同で清掃活動を実施。参加者の募集はInstagram「お遍路サークル」でも実施。
<p>評価・次年度</p>	<p>○遍路文化の維持・継承に向けて、引き続き「ありたい姿」とその実現に向けた3つの取組みを検討・実行していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーク用キャッチコピーのブラッシュアップとともに、「四国遍路に内在する価値」をあらわす、普遍的なキャッチコピーも検討する。 ・引き続き、Instagram「お遍路サークル」のコンテンツを充実させ、若い世代を中心とした多くの方に四国遍路の魅力を発信していく。 ・「遍路道の保全活動」について、より多くの若い世代に関心を持ってもらい、参加いただけるよう、Instagram「お遍路サークル」も含めて、情報発信のあり方を検討・改善する。

計画・目標	<p>○四国遍路の機運醸成に向けた取組みのうち、四国4県で同時開催される大規模イベントである「一日一斉おもてなし遍路道ウォーク」を地域の誰もが知り親しむ四国遍路の象徴的イベントにすることを目指し、主催NPO等と連携し、更なる認知度向上・参加者拡大に向けて取組みを強化する。</p>
実行	<p>○地域コミュニティによる取組みへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一日一斉おもてなし遍路道ウォーク」を四国遍路を象徴するイベントにするため、主催NPO等と連携し、さらに多くの団体・企業等による支援および参加してもらえる仕組みづくり、マスメディアを巻き込むための方策について検討・実施。 ・また、認知度の向上、参加者の拡大に繋がるよう策定した、キャッチコピーをチラシに掲載した。
評価・次年度	<p>○参加目標10,000人を掲げて開催した2025年度の遍路道ウォークの参加申込者数は10,950人、参加者数は10,602人となった。2026年度も目標達成、四国遍路の象徴的なイベントにすることをに向けた取組みを継続する。</p>

計画・目標	<p>○四国遍路世界遺産登録推進協議会 普及啓発部会の一員として、一般の方の日常に馴染みやすい取組み等を企画・実施することで、「四国遍路の魅力」を若い世代も含めて、幅広く伝え、関心を持ってもらい、四国遍路の保存・継承に向けた機運を醸成する。</p>
実行	<p>○四国遍路世界遺産登録推進協議会 普及啓発部会の事業への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年2月、四国遍路世界遺産登録推進協議会が主催した「国際シンポジウム」で紹介された、四国遍路の普遍的価値について、一般向けのパンフレットを改訂して掲載。
評価・次年度	<p>○今後も、四国の遍路文化の維持・継承に向けて、将来を担う若者やインバウンドの関心や理解を高める活動を検討。</p>

3. 地域経済の維持・発展に向けたデジタル技術の活用促進 [DX推進委員会]

(1) DX推進に向けた意識啓発・社会実装支援

計画・目標	○経営層や経営幹部、次世代リーダーを中心に、DXの活用事例や先進デジタル技術等について学ぶ機会を提供。企業の変革風土の機運醸成やDXビジョンへの展開等を支援する。
実行	<p>○経営層向けDX推進セミナーの開催 (2025.9.19, 高松市, Web併用, 39名参加 [会場9名, Web30名]) 共通テーマ: 通信が溶け込む社会の実現</p> <p>①「通信が溶け込んだ空間創り」 講師: KDDI(株) ビジネス事業本部 開坂 沙耶 氏</p> <p>②「Starlinkの現在地2025」 講師: KDDI(株) ビジネス事業本部 三輪 智章 氏</p> <p>○スマートオフィスなど現地視察 (2025.12.5, 東京都, 7名参加) 経営層向けDX推進セミナーで紹介された「TAKANAWA GATEWAY CITY」やKDDI(株)新本社スマートオフィスなどを視察。</p>
評価・次年度	<p>○大手通信事業者の先端技術やオフィス空間等への関心は高く、セミナーの評価も高かった。また、セミナーに関連した現地の視察についても、評価が非常に高かった。理解の深まりとともに、ビジョン策定等の一助になったと考えられる。</p> <p>○今後も引き続き、企業のDX機運醸成やビジョン策定につながる活動を検討する。</p>

<p>計画・目標</p>	<p>○マネジメント層や実務者クラスを中心に、先進的なデジタル技術に関する情報共有や、ITを活用したソリューション事例の紹介、実務体験などの機会を提供。デジタル技術の社会実装を支援する。</p> <p>○オンライン上でデジタルツールに関する機能説明や複数社のシステム比較会を開催。デジタルツールの理解とともに、自社に合うシステム選びを支援する。</p>
<p>実行</p>	<p>○デジタル技術社会実装研究会の開催 [第1回] (2025.9.8, 高松市, 16名参加) 「インストラクターによるドローンの知識向上と操作体験セミナー」</p> <p>[第2回] (2026.1.21, Web開催, 69名参加) 「DX推進事例発表会」</p> <p>○デジタルツール比較会の開催 (2025.5.30, Web開催, 26名参加) 「BIツールを対象としたデジタル比較会」</p>
<p>評価・次年度</p>	<p>○受講者の評価は高く、「分かりやすく学びの多い機会になった」との意見が多く見られた。また、説明資料の送付を希望する声もあり、各ツールへの関心の高さがうかがえた。</p> <p>○今後も、デジタルツール実装につながる支援活動を検討する。</p>

(3) 地域の課題解決に向けたデジタル技術の活用検討

<p>計画・目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○四国における交通利便性の維持に向け、引き続き四国内外の活用状況・先進事例等の調査や会員等への情報共有を行い、デジタル技術を活用した持続的な公共交通サービス構築を支援する。 ○一次産業振興に向け、引き続き四国内外の活用状況・先進事例等の調査や会員等への情報共有を行い、デジタル技術を活用した一次産業の生産性向上や競争力強化を支援する。 ○その他、観光などデジタル化の機運が高まっている分野での取組み状況や大学での先進事例等を調査し、情報発信する。
<p>実行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通維持に向けた調査・情報発信の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・全国初となる路線バスでの「自動運転レベル4」の本格運行を開始した伊予鉄バス(株)から話を伺い、実際に乗車して自動運転を体験調査。 (2025. 2. 18 視察, 2025 年 4 月号会報掲載) ・AI やセンサー技術を活用し、来島海峡で実証を進めている観潮船の自律航行について、(株)エイトノットと(株)しまなみ から話を伺い、実際に乗船して自律航行を体験調査。 (2025. 7. 4 視察, 2025 年 8 月号会報掲載) ○一次産業振興に向けた調査・情報発信の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かした新事業であるサーモンの陸上養殖に取り組んでいる四国旅客鉄道(株)を視察。 (2025. 5. 21 視察, 2025 年 7 月号会報掲載) ・「IoT クラウドシステム (SAWACHI) 」を構築し、栽培環境や出荷データをクラウドで一元管理している高知県・高知大学から話を伺い、実際に同システムを利用している Aitosa(株) のシシトウ農園を視察。 (2025. 5. 23 視察, 2025 年 7 月号会報掲載) ○その他、デジタルの機運が高まっている分野での取組み状況や大学での先進事例等の調査・情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業や団体等と連携して、データや生成AI を活用した課題解決型学習を展開している高知工科大学の取組みを調査。 (2026. 1. 30 視察, 2026 年 3 月号会報掲載)
<p>評価・次年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○継続して先進事例等の調査を行い、適宜、会員へ展開する。

4. 人口減少問題への対応 [人口減少対策委員会]

(1) ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DE&I) の推進

<p>計画・目標</p>	<p>○四国における更なる女性活躍を推進していくため、他の経済団体と連携し、「四国女性活躍フォーラム」を開催し、企業間のネットワーキングの場を提供する。</p>
<p>実行</p>	<p>○「第2回四国女性活躍フォーラム」の開催 (2025. 10. 21, 高知市)</p> <p>・第2回は「ダイバーシティが実現し、働きやすい職場とは」をテーマに、活動紹介および講演、ワークショップの3部構成で開催。四国の経営者・管理職や従業員ら105名が参加。</p> <p>【第一部】高知県経営者協会 Acqua クラブの活動紹介</p> <p>【第二部】講演 テーマ：人生曲線を描いて自分のキャリアを振り返り 今後の人生を考える 講師：(株)高知銀行 取締役頭取 河合 祐子 氏</p> <p>【第三部】ワークショップ テーマ：ダイバーシティが実現し、働きやすい職場とは ～四国で歩みをすすめるために～ ファシリテーター：アビリティセンター(株) 企業研修グループリーダー 江渕 泰子 氏 サポート：同社 田中 恵子 氏 目的：第1回フォーラムでのワークショップ検討結果を踏まえ、ダイバーシティ実現へ向けて本気の変革を起こしていくため、「経営層・管理職チーム」により今後四国の企業が取り組みたいこと(=戦略)、「メンバーチーム」により働きやすい職場とは(=理想職場)について討議を行い、両チームにより四国で歩みを進める方法について議論。</p> <p>【ネットワーキング】名刺交換懇親会</p>
<p>評価・次年度</p>	<p>○「社内では考えつかないようなアイデアがあった」、「業種は違っても思いは同じだった」等の感想や意見が寄せられ、DE&Iへの理解と関心を深めることができた。</p> <p>○さらなるステップアップを目指し、フォーラム名称の見直しや、これまでの参加者へのフォローアップ、そして、より多くの経営者に参加いただけるような改善等を含めて、第3回開催について検討。</p>

<p>計画・目標</p>	<p>○会員企業の中で社業発展などに成果を上げている女性の活躍ぶりを取り上げ、四国産業界における女性活躍のロールモデルとしてWebで情報発信する。</p>
<p>実行</p>	<p>○女性活躍ロールモデルのインタビュー記事のWeb情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員企業1社を取材。記事を当会のHPや会報への掲載を予定。 <p>[第7回] (株)阿波銀行 (取材日: 2026. 1. 7)</p> <p>対象者: 経営統括部 副部長 小林 美紀 氏 川内支店 支店長 渡邊 歩 氏</p>
<p>評価・次年度</p>	<p>○会員企業等が、女性活躍、DE&Iを推進していく上で有益な情報提供ができるよう、本取組みを継続実施。</p>

(2) 若者に選択される労働市場（Uターン就職等）への取組み

<p>計画・目標</p>	<p>○四国外の若者の還流を促すため、四国4県と四経連で構成する「四国U I Jターン就職促進協議会」の共同幹事として、四国外の学生・社会人を対象とした合同企業説明会を開催する。</p>
<p>実行</p>	<p>○「四国U I Jターン・インターンシップフェア」の開催 (2025.7.5, 大阪市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4県推薦のもと、四国のリーディング企業32社（うち25社は会員企業）がブースを設け、主に関西圏大学生を対象に、事業内容やインターンシップの予定等について説明を実施。また、四国4県の公務員採用ブースも設置。 ・開催に先立ち、四国から四国域外の大学へ毎年1万人以上が進学しており、このうち4割以上を占める関西圏において、主要大学の就職支援担当教員・職員への個別訪問説明（5月）を実施し、意見交換と併せて、本フェアの周知を依頼。 ・当日は、学生124名（49大学）、企業63名（32社）、自治体4県18名の計205名が参加。
<p>評価・次年度</p>	<p>○学生と出会える貴重な機会であり、引き続き参加を希望する企業が多いことから、費用を抑制しつつ参加者数を増やすべく、四国4県とともに、周知方法や開催時間、構成等の工夫を検討した上で、継続実施。</p>

<p>計画・目標</p>	<p>○都市部の若者の地方に対する関心を高め、四国へのU I Jターンを促進するため、実際に四国にU I Jターン就職した方のインタビュー記事をWe bで情報発信する。</p>
<p>実行</p>	<p>○U I Jターン就職者へのインタビュー記事のWe b情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国にU I Jターン就職した方に、経緯や思い、四国で働く意義等をインタビュー取材し、その記事をWe b上で情報発信。 ・2025年度は、(株)四国銀行3名の取材記事を掲載。 (累積で23社、57名) ・四国4県の就活サイトとの相互リンクを継続。 ・7月の「四国U I Jターン・インターンシップフェア」にて、参加者に本取組みのチラシを配布。
<p>評価・次年度</p>	<p>○会員企業の協力を得ながら、本取組みを継続実施。</p>

計画・目標	<p>○四国の大学生の域外流出抑制施策として、大学生の就活動向や企業の採用事情などについて産学間の相互理解を深めるため、「四国の大学生の地元定着に向けた産学情報交換会」を開催する。</p>
実行	<p>○「四国の大学生の地元定着に向けた産学情報交換会」の開催 (2025. 12. 11, 高松市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国の大学（徳島、香川、愛媛、松山、高知、高知工科大学）の就職支援担当教員・職員と会員企業の採用担当者が、就職・採用活動の実情に関する相互理解を深め、地元定着促進につなげることを目的として、「第7回四国の大学生の地元定着に向けた産学情報交換会」を開催。会員企業、大学から計56名が参加。 ・学生の就活事情に詳しい専門家による講演および大学教職員と企業の採用担当者との個別面談の二部構成で実施。 <p>【第一部】講演 テーマ：2026年卒採用の中間報告と2027年以降の就職・採用の展望 講師：(株)リクルート 学生キャリア支援推進部 リクナビ編集長 菊池 祐城 氏</p> <p>【第二部】個別面談 大学の就職支援担当教員・職員と会員企業の採用担当者との個別面談 （6大学12名、企業31社・44名）</p>
評価・次年度	<p>○参加者からは「最新の傾向やトレンドなど、多くの示唆を得られた」、「大学の担当者との接点を持つことができ、有益であった」などの感想が寄せられ、四国の大学生の地元定着に向けた産学間のネットワーク構築に寄与する機会を提供できた。</p> <p>○大学側から「企業ニーズがあるなら、もう1枠増やしてもよい」といった意見も寄せられたため、会員企業の満足度を高めるべく、プログラム見直し等について検討した上で、次年度も継続実施。</p>

<p>計画・目標</p>	<p>○学生に地元企業の事業内容や技術開発動向、必要とする人材像などを伝えるため、香川大学創造工学部「地域企業ニーズ概論」に四経連事務局ならびに会員企業から講師を派遣する。</p>
<p>実行</p>	<p>○香川大学創造工学部「地域企業ニーズ概論」への講師派遣 (2025.10.15・29, 11.5・19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全8回のオンライン授業(90分/回)のうち、6回分を当会が担当。1回目は当会事務局から四国の経済・産業の特長や動向、地域創生に向けた取り組み状況など、2回目以降は、大倉工業(株)、(株)STNet、(株)タダノから事業概要・経営理念・ビジネスモデル・技術開発動向や若者への期待などについて、それぞれ講話を行った。 ・2025年度から、学生による「企業研究」として、会員企業6社から事業内容等を紹介する動画コンテンツを提供いただき、オンデマンド方式による授業を追加。 ・就職活動開始前の創造工学部2年生(対象約350名)を中心に、203名が受講。 <p>【講師】</p> <p>第2回 四国経済連合会 常務理事 濱田 有一 第4回 大倉工業(株) 取締役上席執行役員 新規材料事業部長 植田 智生 氏 第5回 (株)STNet 経営企画室 研究開発部長 井下 道隆 氏 第7回 (株)タダノ 取締役執行役員常務 合田 洋之 氏</p> <p>【企業研究協力企業】 (株)サムソン、四国旅客鉄道(株)、セーラー広告(株)、西日本高速道路エンジニアリング四国(株)、(株)マキタ、(株)四電工</p>
<p>評価・次年度</p>	<p>○過去の講話がきっかけで、インターンシップ参加や入社に繋がるなど地元定着に寄与しており、継続実施。</p> <p>○四国内他県の大学での同様の講座の開設について各大学と協議。</p>

計画・目標	○徳島・鳴門教育・香川・愛媛・高知大学が共同で開講しているeラーニング科目「知のプラットフォーム形成事業」に、会員企業のコンテンツを提供する。
実 行	<p>○四国5国立大学 共通eラーニング科目へのコンテンツ提供 (2025.10~12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国の5国立大学(徳島、鳴門教育、香川、愛媛、高知)が、eラーニングで履修できる共通科目を開講。2025年度後期に科目「四国の経済・産業」が新設されることとなり、全8回の授業のうち6回分について、四経連および会員企業5社が担当。 ・各企業から提供されたコンテンツ(動画や関連資料)を大学内システムに掲載し、学生が、そのコンテンツをオンデマンド方式で視聴・閲覧、企業研究を行い、レポートを作成・提出。 ・5国立大学合計で、約900名が受講した。 <p>【協力企業】 (株)大塚製薬工場、四電ビジネス(株)、(株)宇和島プロジェクト、四国ガス(株)、(株)技研製作所</p>
評価・次年度	○企業の事業概要のみならず、社会貢献活動や女性活躍の取組みなど、幅広く理解を深めていただく機会となることから、「地域企業ニーズ概論」と同様、より多くの企業を紹介する機会とすべく、企業枠を1つ増やし、継続実施。

(3) 企業の教育への関わり方に関する調査

<p>計画・目標</p>	<p>○企業の教育への関わり方について、四国内の取組み事例の調査や企業・高校へのヒアリング等をもとに取り纏めた報告書を公表するとともに、同報告書の説明や取組み事例の紹介を行うセミナーを開催し、キャリア教育の一層の理解促進、機運醸成を図る。</p>
<p>実 行</p>	<p>○「企業の教育への関わり方に関する調査報告書」の取り纏め・公表 (四国アライアンス地域経済研究会との共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度に実施した高校生アンケートや企業ヒアリング結果を踏まえ、継続性あるキャリア教育に関する提言などを織り込んだ報告書「企業の教育への関わり方に関する調査～四国の高校生1万名アンケートから考える地元回帰への取組み～」を取り纏め、公表。 (2025. 5. 29) ・「明日の地域づくりを考える四国会議」において、本報告書の内容を織り込み。 <p>○「キャリア教育推進セミナー」の開催 (2025. 7. 29, Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国におけるキャリア教育の一層の理解促進を図るため、報告書概要説明と、報告書で取り上げた企業・団体の取組み事例をご紹介いただく「キャリア教育推進セミナー」を開催。107名が視聴。 <p>【第1部】 「企業の教育への関わり方に関する調査報告書」概要紹介 【第2部】 事例紹介</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「化学と地域をつなぐ～サイエンスコミュニケーションプロジェクト～」 講師：高松帝酸(株) 総務部広報・マーケティンググループ課長 長谷部 匡昭 氏 ②「地域で若者を育て、地域に若者が戻る(残る) 共育型インターンシップ」 講師：(一社)香川県中小企業家同友会 副代表理事 関本 亜紀 氏 ③「ローカルメディアの新たな地域貢献を目指して」 講師：(株)テレビ愛媛 戦略事業室 参与 村口 敏也 氏
<p>評価・次年度</p>	<p>○マスコミに取り上げていただき、セミナー視聴者から意見交換を受けるなどの反応をいただいたが、キャリア教育のさらなる浸透を図るため、関係団体等と連携し、今後の取組みについて検討。</p>

5. 交通インフラ整備、防災・減災対策

(1) 四国新幹線の実現に向けた取組みへの参画・協力

<p>計画・目標</p>	<p>○四国新幹線整備促進期成会が掲げる中長期目標「リニア中央新幹線が新大阪までつながる 2037 年を一つのターゲットとして四国新幹線の開業を目指す」に沿って、四国新幹線の実現に向けた以下の取組みに参画・協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四国新幹線の早期実現を望む四国の熱意を中央にアピールする「第7回東京大会」 ・ 四国新幹線の整備計画への早期格上げと新幹線建設予算の大幅増額を求める要望活動 ・ 四国新幹線整備への機運を醸成・浸透させるための大規模な署名活動と国への提出 ・ 講演会、勉強会での講師対応 ・ 四国新幹線の理解促進や早期実現に向けた機運醸成の輪を広げるためのSNSの積極的活用、イベントやシンポジウムでの着ぐるみを活用した広報啓発活動 ・ 四国新幹線に関する応援の輪を広げるため、四国新幹線に関する機運醸成活動を行う他団体との連携・支援 など
<p>実行</p>	<p>○「四国の新幹線早期実現」に向けた署名活動の中間発表、署名の受贈式を実施 (2025. 6. 4)</p> <p>○四国の期成会単独での「第7回東京大会」を開催、財務省・国交省・自民党本部への要望活動を実施、「四国の新幹線の早期実現に向けた署名」の届け出 (2025. 8. 21)</p> <p>○全国の基本計画路線推進団体との共同による「第1回新幹線基本計画路線全国総決起大会」の開催、財務省・国交省・自民党本部への要望活動を実施 (2026. 1. 22)</p> <p>○広報啓発活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS等を活用した広報活動の実施 (YouTube 機運醸成動画の制作) ・ 四国新幹線応援キャラクター「つなぐん」を活用した広報活動の実施 <p>○講演会、勉強会での講師対応、シンポジウムでの講演活動の実施</p> <p>○四国新幹線の理解促進や早期実現につながる事業に対する支援・協力の実施</p>
<p>評価・次年度</p>	<p>○引き続き、四国新幹線整備促進期成会の取組みに参画・協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京大会、国への要望など、四国の熱意を中央に訴求する活動を予定。 ・ 講演会、SNSでの情報発信など、地元機運の醸成に向けた、幅広い年代層への各種広報活動を実施予定。

(4) 防災・減災対策

<p>計画・目標</p>	<p>○他経済団体等とも連携し、四国地域・企業の防災・減災対策の強化に資する施策の充実・強化を国に働きかけていく。</p> <p>○南海トラフ地震対策をはじめ防災・減災対策を進めるための議論に参画し、経済界の立場から協力・支援する。</p>
<p>実行</p>	<p>○防災・減災投資を促進する税制等に関する要請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災投資を促進する税制等について、「明日の地域づくりを考える四国会議」要望活動にて関係府省庁に要請（2025. 10. 1） <p>○西日本経済協議会防災分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災分科会に参画し、他地域における防災・減災に関する取組みを学ぶとともに、防災分野の地域間連携に関する意見交換を実施 ・第1回分科会（2025. 7. 4, 名古屋市ほか） 現場視察（名古屋大学減災館）、講演会および意見交換 <p>○四国南海トラフ地震対策戦略会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震の対策推進に向けた会議体に参画し、経済界の立場から意見・提案を行った。
<p>評価・次年度</p>	<p>○引き続き、他経済団体等とも協調し、四国地域・企業の防災・減災対策の強化に資する取組みを継続する。</p> <p>○引き続き、南海トラフ地震をはじめ防災・減災対策を進めるための議論等に参画するとともに情報収集に努め、経済界の立場から協力・支援を行う。</p>

6. 広報活動、調査活動、組織強化

(1) 広報活動

計画・目標	<ul style="list-style-type: none"> ○四経連の会報やホームページについて、タイムリーな活動報告を行うとともに発信内容の充実に努める。 ○四経連活動の認知度向上・理解促進に向け、四経連主催のイベント等について、マスコミや連携団体の媒体を通じた積極的な情報発信に努める。
実行	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会活動や交流イベント、提言・調査報告など、当会の活動実績について会報発行やホームページを通じて適宜情報提供。 ○四国新幹線整備促進期成会東京大会や四国地域経済懇談会など、大規模イベントを中心に、マスコミへの取材案内を強化し対応。また、マスコミからの会長コメント要請等に的確に対応し、当会の姿勢を積極的に情報発信。
評価・次年度	<ul style="list-style-type: none"> ○継続して実施する。

(2) 調査活動

計画・目標	<ul style="list-style-type: none"> ○四経連景気動向調査（四半期ごと）を計画的に実施し、その結果を公表する。
実行	<ul style="list-style-type: none"> ○会員企業等を対象に景況感や生産活動の状況に関するアンケートならびに消費動向等に関するヒアリング調査を実施し四半期ごとに公表。 ○景気動向調査に合わせ、トピックスとして、「賃上げ動向」、「コストアップに伴う価格転嫁の状況」、「米国の関税政策による影響」、「人手不足の緩和に向けた対応策」、「2026年にかけて懸念する事業リスク」等について調査。 ○2021年12月調査から導入したWebによる回答方式について、調査依頼時に周知徹底を図ることにより、高いWeb回答率を確保。 (平均Web回答率) 2023年度：約4割 2024年度：約7割 2025年度：約8割
評価・次年度	<ul style="list-style-type: none"> ○定例項目のほか、時宜に合ったトピックスを選定し、調査継続。 ○引き続き、Web回答の促進・定着に努める。

計画・目標	○景気ウォッチャー調査（内閣府からの受託調査・毎月）を適切に実施する。
実行	○内閣府から四国地域の「景気ウォッチャー調査」を受託（毎月）
評価・次年度	○受託を継続する。

計画・目標	○人口や面積の規模感が比較的四国と近いポルトガル国を中心に、「観光振興」と「地域産業の持続的発展」を調査テーマとした海外経済視察を実施する。
実行	○長井会長を団長とする 海外経済視察団 （24名）をポルトガル、フランス（パリ）へ派遣。先進的な取組み事例等について調査し、四経連活動の参考とした。（2025.5.5～14） <視察テーマおよび視察先> ・観光振興 オビドス市観光局（葡）、サンティアゴ・デ・コンポステーラ事務所（葡）、日本政府観光局パリ事務所、Japan Experience 社（仏） ・地域産業の持続的発展 Floene 社（葡）、リスボン市（葡）、複合施設 WOW（葡）
評価・次年度	○ポルトガルやパリにおける観光振興施策、カーボンニュートラルやデジタル技術の活用など地域産業の持続的発展に関する取組みを視察することにより、四国の持続的発展に向けた参考になる手掛かりが多く得られた。 ○次年度は、次回（2027年度実施）の海外視察テーマや視察先等を検討する。

（3）組織強化

計画・目標	○四経連の組織強化を図るため、新規入会の勧誘ならびに退会抑制に努める。
実行	○役員や会員からの紹介を通して、積極的な入会勧誘活動を実施し、今年度は14社の入会を得ることができた。なお、業績不振などの理由により2社が退会した。
評価・次年度	○引き続き、会員の増強に努める。

7. 行政や他の経済団体との連携、会員交流行事の開催

計画・目標	○「明日の地域づくりを考える四国会議」による提言・要望
実行	○四国の4経済団体（四経連、四国商工会議所連合会、四国地区中小企業団体中央会連絡協議会、四国地区商工会連合会連絡協議会）で構成する「明日の地域づくりを考える四国会議」において提言を取り纏め、四国選出の自民党国会議員との懇談会、経済産業省・国土交通省・自由民主党への要望活動を実施。（2025.10.1，東京都）
評価・次年度	○経済界の要望が国政に反映されるよう、引き続き、提言・要望活動を実施する。

実行	○大分県、愛媛県、九経連、四経連を代表とする、「豊予海峡ルート推進協議会」にて、豊予海峡ルートの早期整備等を要望。（2025.10.2） ○要望先：自由民主党 森山 裕 幹事長〔当時〕 国土交通省 水嶋 智 事務次官 廣瀬 昌由 技監 杳掛 敏夫 道路局長 要望者：佐藤大分県知事、浅川専務理事ほか
評価・次年度	○要望先からは「どんなに財政が厳しい状況にあっても、夢のある事業が必要」、「広域連携という意味で（豊予海峡ルートは）象徴的な路線であり、検討していきたい」、とのコメントを得た。 ○引き続き、大分県、愛媛県等と連携し、要望活動を実施する。

計画・目標	○「四国の4県知事と経済団体代表者による懇談会」の開催
実行	○「四国の4県知事と経済団体代表者による懇談会」を開催し、「四国における広域観光の推進に向けた連携」をテーマに意見交換を実施。（2025.6.4，高松市）
評価・次年度	○四国4県知事との連携を深めていく観点から、継続して実施する。

計画・目標	○「中四国サミット」への参画および提言・要望
実行	<p>○中四国9県の知事と四経連・中国経連の会長で構成する「中四国サミット」において、共同アピールを採択。当会からは「広域的な観光連携の推進」、「高速交通ネットワーク及び地域交通の整備・充実」について意見を述べた。（2025.8.26, 東京都）</p> <p>○共同アピール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災・減災、国土強靱化の更なる推進 ・ 広域的な観光連携の推進 ・ 高速交通ネットワーク及び地域交通の整備・充実 ・ カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進 ・ 中小企業等が物価上昇に負けない賃上げを行うための、コスト上昇分を価格転嫁できる取引環境の整備 ・ 社会保障制度の確保 ・ 教育の充実 ・ 東京一極集中の是正と地方における人口減少対策 ・ 国民の政治参加の促進と公明かつ適正な選挙の実現 ・ 参議院議員選挙における合区の解消
評価・次年度	○2026年度は8月に愛媛県で開催予定。

計画・目標	○「瀬戸内海クルーズ推進会議」や「Setouchi Vélo 協議会」への参画
実行	<p>○瀬戸内海クルーズ推進会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「第9回 瀬戸内海クルーズ推進会議全体会議」に参加し、新アクションプランについての意見交換を行った。（2025.4.24, Web） <p>○Setouchi Vélo 協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9県をまたぐ「瀬戸内エリア」を共通の財産と位置付け、協議会主導の広域地域連携により、日本屈指の「サイクリング推進エリア」として育てることを目的に活動を継続。 <p>「Setouchi Vélo 協議会岡山会議」のテストランおよび総会へ参加。</p>
評価・次年度	<p>○瀬戸内海クルーズ推進会議 継続参加。次回会議は4月頃の開催予定。</p> <p>○Setouchi Vélo 協議会 継続参加。次回総会は愛媛県で開催予定。</p>

計画・目標	○他地域の経済連合会との意見交換の実施
実行	○経連同士の交流や情報交換を目的に、中国経連との事務局懇談会を開催。(2025.7.7, 高松市)
評価・次年度	○他経連との連携を深めていく観点から継続して実施する。

計画・目標	○「西日本経済協議会」への参画および決議事項の要望
実行	<p>○「西日本経済協議会」への参画および決議事項の要望(幹事：関西経連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部以西の6経済連合会で構成する「西日本経済協議会」において、「共創と広域連携による魅力と活力ある地域の創生～西日本が拓く新たな未来～」を統一テーマに、第67回総会を開催。各経済連合会の会長等が意見発表を行い、総会決議を採択した。(2025.10.16, 京都市) ・総会決議に基づき、6経連会長等が内閣官房・国交省・経産省・総務省・復興庁・自民党へ要望活動を実施。(2025.11.13, 東京都)
評価・次年度	○次年度は当会が幹事を担当し、2026年10月に総会(松山市)、11月に要望活動(東京都)を実施予定。引き続き、西日本地域の経連と連携し、同協議会の活動に参画する。

計画・目標	○経団連との「四国地域経済懇談会」の開催
実行	<p>○経団連との「四国地域経済懇談会」の開催(2025.12.3, 松山市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経団連役員と四経連役員・会員を合わせ約160名が出席し、「共創と広域連携で切り拓く日本と四国の明るい未来～新たな時代の『坂の上の雲』を目指す～」を基本テーマに意見交換を実施。 ・翌日、経団連の筒井会長はじめ役員など44名は、西条市にある今治造船(株)西条工場を訪問し、世界トップレベルの技術力を誇る工場内の設備や作業などを視察した。
評価・次年度	○引き続き経団連と連携し、時宜にかなったテーマを選定し開催する。

計画・目標	○四国新年交流会、四経連懇話会等の開催
実行	<p>○「四国新年交流会」の開催（2026. 1. 13, 高松市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員、自治体の代表者、国の出先機関の局長、大学学長など、四国の産・学・官から約460名が出席し、交流・歓談。 <p>○「四経連懇話会」の開催（4県都）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時宜にかなったテーマを選定し開催。 <p>◇高知（2025. 8. 4, 参加者：75名）</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ：「国土強靱化で『四国再生』」 講師：京都大学大学院 都市社会工学専攻 教授 藤井 聡 氏 <p>◇徳島（2025. 8. 18, 参加者：73名）</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ：「人口減少時代の広域連携と圏域形成： 望ましい四国圏のあり方を考える」 講師：東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 准教授 瀬田 史彦 氏 <p>◇香川（2025. 8. 28, 参加者：85名）</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ：「四国・瀬戸内エリアの観光の現状と展望 ～インバウンド調査を踏まえた持続可能な観光地域 づくりと広域連携の推進に向けて～」 講師：(株)日本政策投資銀行 四国支店 調査役 藤岡 亜希子 氏 <p>◇愛媛（2025. 9. 3, 参加者：88名）</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ：「昨今の中国経済と日系企業の対中ビジネス」 講師：日本貿易振興機構（ジェトロ）四国地域本部 香川貿易情報センター所長 水田 賢治 氏
評価・次年度	<p>○継続して実施する。</p> <p>○懇話会では社会的関心の高いテーマ・講師を選定する。</p>

(参考) 会員数

○2025年度加入会員

県別	種別	法人・団体名	代表者（敬称略）
香川	法人	(株)トーカイ	代表取締役 松尾 隆之
香川	法人	(株)オカムラ高松支店	高松支店長 石井 賢二
四国外	法人	第一生命保険(株) 中国・四国営業本部	常務執行役員 中国・四国営業本部長 三上 研
高知	法人	高知さんさんテレビ(株)	代表取締役社長 鳥居 洋介
香川	法人	セトラスホールディングス(株)	代表取締役社長 木下 幸治
香川	法人	前田建設工業(株)四国支店	四国支店長 白川 英志
愛媛	法人	(株)あいテレビ	代表取締役社長 左納 和宜
高知	法人	(株)第一コンサルタンツ	代表取締役 右城 猛
四国外	法人	(株)Leaner Technologies	取締役COO 田中 英地
香川	法人	(株)中国銀行	執行役員四国地区本部長 吉田 秀樹
四国外	法人	(株)ユピテル	西日本ブロック統括 ゼネラルマネジャー 中川 光二郎
愛媛	法人	(株)愛媛CATV	代表取締役社長 宮内 隆
愛媛	法人	(株)東洋印刷	副社長 村上 茉莉江
徳島	法人	(株)秦商事	取締役会長 秦 幸助

○会員数一覧表

(2026年3月末現在)

	徳島	香川	愛媛	高知	四国外	計	増	減
法人数	22	176	57	22	28	305	14	2
団体数	9	20	13	8	1	51	—	—
計	31	196	70	30	29	356	14	2